

灰色かび病情報第1号

(トマト、キュウリ、ナス、イチゴ)

令和5年12月26日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

灰色かび病の発生に注意しましょう！

1 発生状況

12月下旬に行った巡回調査において、トマトの灰色かび病発病果率は0.14%（平年0.04%、前年0%）で、過去10年と比較して2番目に高い状況でした。

キュウリの灰色かび病発病果率は0.13%（平年0.14%、前年0%）で、過去10年と比較して3番目に高い状況でした。ナス、イチゴの発病果率は平年並でした。

名古屋地方气象台12月21日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は高い確率60%です。灰色かび病は多湿のときに発生しやすくなります。暖房機の稼働時間が短くなる等施設内が乾きにくい条件となると多湿になりやすいため、灰色かび病の発生に注意が必要です。

2 本病の生態等

本病の病原菌は糸状菌です。多犯性で、ナス、キュウリ、イチゴ、トマトなど多くの野菜、花き類、果樹類を侵します（図1～6）。

病原菌は、傷口や、咲き終わってしぼんだ花卉などの枯死した部分から侵入し、そこで増殖した菌が有力な伝染源となります。

気温が20℃くらいで湿度が高いと発病しやすく、盛んに孢子を形成します。孢子の飛散は快晴時には少なく、曇雨天時に多くなります。

菌糸、分生孢子の形で被害組織中に残存し、次作の伝染源となります。



図1 輪紋状の病斑上に灰色のかびが密生したナス果実



図2 ナスの葉にできた輪紋状の病斑



図3 灰色のカビが密生した
キュウリの幼果



図4 灰色のカビが密生した
イチゴ果実



図5 灰色のカビが密生した
トマト果実



図6 トマト果実表面の白色リング状の
病斑（ゴーストスポット）

3 防除対策

- (1) 病原菌は傷口や枯死した部分から侵入します。花卉から侵入することが多いため、開花後のしぼんだ花卉を摘み取りましょう。
- (2) 施設内が多湿になると発病が多くなるので、過剰なかん水を避け、送風を行いましょ
- (3) 発病前から予防散布を行いましょ。
- (4) 同系統の殺菌剤を連用すると、殺菌剤耐性菌の発生リスクが高まります。特に本病は薬剤感受性の低下に関する報告が多く、耐性を獲得しやすい病原菌です。耐性菌発生を防ぐため、FRACコード表を参照して、異なる作用の殺菌剤をローテーション散布しましょ。
- (5) 被害果、被害葉は伝染源となるので、発見したら速やかにほ場外に持ち出し、適切に処分しましょ。

表 灰色かび病に登録のある主な農薬

作物名	農薬名	使用時期	使用回数	FRAC コード
トマト ミニトマト	ダコニール 1000	収穫前日まで	トマトは4回以内 ミニトマトは2回以内	M 5
	ベルコートフロアブル	収穫前日まで	トマトは3回以内 ミニトマトは2回以内	M 7
	セイビアーフロアブル 20	収穫前日まで	3回以内	12
	ピクシオDF	収穫前日まで	4回以内	17
	フルピカフロアブル	収穫前日まで	4回以内	9
	ロブラール水和剤	収穫前日まで	3回以内	2
キュウリ	ダコニール 1000	収穫前日まで	12回以内	M 5
	ベルコートフロアブル	収穫前日まで	7回以内	M 7
	セイビアーフロアブル 20	収穫前日まで	3回以内	12
	ピクシオDF	収穫前日まで	4回以内	17
	ロブラール水和剤	収穫前日まで	4回以内	2
ナス	ダコニール 1000	収穫前日まで	4回以内	M 5
	ベルコートフロアブル	収穫前日まで	3回以内	M 7
	セイビアーフロアブル 20	収穫前日まで	3回以内	12
	ピクシオDF	収穫前日まで	4回以内	17
	フルピカフロアブル	収穫前日まで	4回以内	9
	ロブラール水和剤	収穫前日まで	4回以内	2
イチゴ	セイビアーフロアブル 20	収穫前日まで	3回以内	12
	フルピカフロアブル	収穫前日まで	3回以内	9
	ロブラール水和剤	収穫前日まで	4回以内	2

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/lab0/mechanism/code_pdf01_2023.pdfを参照する。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。